

東京大学大学院農学生命科学研究科
附属演習林北海道演習林（以下、北演）
は、1899年に北方林業と林学の研
究・教育を目的として設立されました。
北海道のほぼ中央、十勝岳連峰の南西
部に面積約2.3万haの森林を有してい
ます。最高峰は北東端の大麓山（標高1、
459m）で、北西部の最低標高地点
との標高差は1、269mあります。

演習林の周辺には、かつて労働力確
保のための林内植民制度によって開拓
され、戦後払い下げられた村落がいく
つかあります。なかでも麓郷地区は、
1980年代に大ヒットしたドラマ「北
の国から」の舞台となりました。

気候帯は冷温帯から亜寒帯で、林相
は落葉広葉樹林、針広混交林、針葉樹
林に大別されますが、大部分は針広混
交林です。木本類は、針葉樹が4科6
属8種、広葉樹が37科77属161種記
録されています。主な林業樹種は、針
葉樹がトドマツ、エゾマツ、アカエゾ
マツ、イチイ、広葉樹がシナノキ、イ
タヤカエデ、ダケカンバ、ウダイカンバ、
ミズナラ、ニレ類、ハリギリ、ホオノキ、
アサダ、カツラ、ヤチダモなどです。

戦後、国有林・民有林の多くが人工
林林業へ方向転換した中で、北演は
1899年の設立以来一貫して天然林
択伐施業を継続してきました。なかで



北海道演習林の植生



日本森林学会による

日本の林業遺産を知ろう！

第24回 天然林施業実践の森「東京大学北海道演習林」

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 林長 かまた 鎌田 なおと 直人



過去に4回択伐の入った林分。蓄積量は増加を続けている



銘木市に出品したウダイカンパの丸太（3.034㎡、527万円で落札）



電子野帳を使った調査の様子



第5代北海道演習林長
高橋延清教授

も、大きな転換点となったのが、第5代林長であった高橋延清林長（通称、「ごろめさん」）によって19958年から始められた林分施業法です。それまでの良質材優先の生産方針が、持続的林业へ大きく方向転換されました。健全

な森林を維持することにより資源の充実が図られ、持続的な生産を可能とし、公益的機能も発揮できるという理念にもとづき、森林生態系のメカニズムを活用した持続的な木材生産の実現を目標としています。そのため、極相手前の状態の維持、林冠のうっ閉した複層林の維持、攪乱の規模と強度の最小化、良木遺伝子の保存、地力の維持と抵抗力の高い林の育成という基本原則に則り、森林の状態によって林分を類型化して、林分タイプごとに最適な施業を行います。林分施業法は、森林がもつ環境保全の公益的機能と木材生産の経

済的機能を両立し、両機能を高度に維持・発展させる森林経営の手法として国内外で高く評価されています。現在では、樹木の生育環境と到達利便性の違いによって15年回帰の里山林（11,200ha）と20年回帰の奥地林（7,700ha）に区分しているほか、山火再生林・人工林になっている山火事跡地（1,100ha）、および広葉樹優良木（銘木市向けの個体管理）の作業級を設けて、異なる施業体系を採用しています。また、人為攪乱の少ない森林や貴重な植物群落は保存林や特殊植物保護区として施業の対象からはず

し、一部では定期的な調査を行っています。近年では、スマート林业の実践的研究や、ミスナラのウィスキー樽材など木材の高付加価値利用の研究などにも組織的に取り組んでいます。

参考文献
鎌田直人（2020）東京大学北海道演習林の概要と沿革・現状と課題・北方林業 七一巻第三号
高橋延清（2001）林分施業法その考えと実践〈改訂版〉。ログ・ビー
有限会社